

Tea Containers and Tea Bowls: Through the Eyes of a Connoisseur

企画展

茶入 と 茶碗



『大正名器鑑』の世界

2020年 5月30日(土) ~ 7月12日(日) 根津美術館 NEZU MUSEUM

古くから茶人に格の高い道具として大切に扱われてきた茶入。手に取って親しむことで、一層愛着が増す茶碗。茶人と茶碗は、今日の茶の湯で最も人気の高い道具と言えるでしょう。

この二つの道具が重視されている理由のひとつに、大正10年(1921)より刊行が始まった『大正名器鑑』(全9編11冊)の存在があります。茶人のための大名物図鑑ともいふべきこの本で、茶人と茶碗(天目を含む)に限り、875点もの伝世品が名物として取り上げられました。銘の由来や、大名物・名物・中興名物などの分類、寸法、付属品、伝来、実見記、写真など、さまざまな情報が記された『大正名器鑑』によって、茶人と茶碗は、観賞の指針が明確に示されたのです。

『大正名器鑑』を編纂した高橋義雄(1861~1937、号箒庵)と、当館コレクションの礎を築いた初代根津嘉一郎(1860~1940、号青山)は茶の湯を通しての盟友でした。箒庵は自らを嘉一郎の茶の湯の「後援者」と称し、また嘉一郎は箒庵を良きアドバイザーとして全幅の信頼を置きます。最後の第九編が発行されてのち、昭和4年(1929)に箒庵の慰労会を主催したのも嘉一郎でした。

このたび根津美術館では、刊行百年を記念し、企画展「茶人と茶碗―『大正名器鑑』の世界―」を開催します。展覧会の第一章では館蔵の茶入と茶碗の名品をもって『大正名器鑑』の成立過程を概観し、第二章ではその刊行関連行事で用いられた作品を通して、高橋箒庵と根津嘉一郎の友情の証をご覧いただきます。

大海茶人 銘敷島大海 日本・室町時代 16世紀
重要文化財 堅手茶碗 銘長崎 朝鮮・朝鮮時代 16~17世紀
『大正名器鑑』(初版本) 高橋義雄(箒庵)編 大正10年(1921)~昭和2年(1927)
いずれも根津美術館蔵

根津美術館
NEZUMUSEUM





『大正名器鑑』 編者
高橋義雄 (1861~1937、号 箒庵)

水戸藩士の四男に生まれる。慶應義塾卒業後は新聞記者として活躍。後に実業界に入り、三井呉服店、王子製紙などで重役を務める。50歳で引退し、以降は茶の湯を中心に趣味の世界に生きた。『東都茶会記』や『大正名器鑑』など茶の湯に関する著作を多く残す。

たいしょうめいきかん しよほんぽん
大正名器鑑 (初版本)
高橋義雄 (箒庵) 編
全9編 11冊、索引
紙、印刷
大正10年 (1921)~昭和2年 (1927)
根津美術館蔵



大正10年から約5年間で、全9編11冊および索引を刊行。初版本400部は、引き出しのある漆塗り木箱2箱に納められる。助手・高橋龍雄(梅園)収集の文献資料や長谷川清七郎の写真、川面義雄の木版彩色図版も見どころ。

—名家所蔵の名品が並ぶ—



重要文化財
かたつきちやいれ まつや
肩衝茶入 銘 松屋
福州窯系 1口 施釉陶器
中国・南宋~元時代
13~14世紀
根津美術館蔵

唐物の肩衝形は最も重んじられる茶入。『大正名器鑑』では第一編の冒頭に置かれる。なかでも、背の低さと、胴の強い張りが珍しく、古くから知られるこの茶入は、折り込みを含み、9ページにも渡って取り上げられている。島津忠重旧蔵。



重要文化財
かたで ちやわん ながさき
堅手茶碗 銘 長崎
1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代
16~17世紀
根津美術館蔵

古来、堅手茶碗の名品として知られ、長崎久太夫から小堀遠州、大徳寺孤篷庵、松平不昧へと伝来。ひずんだ口縁部より、箒庵は「堅手茶碗としては大寂物」と評した。松平直亮旧蔵。



ちつきじつけんき
茶器実見記
高橋箒庵著
日本・大正7年 (1918) 頃
慶應義塾図書館蔵
*会期中ページ替えあり

大正7年、編者の箒庵が松江市の雲州松平家を訪れ、所蔵の茶入と茶碗を実見した時の調書。箒庵がどのように茶器を見分したかが見て取れる。「銘 村雨」の茶入はその後、根津嘉一郎の手に渡った。



たまかしわでちやいれ むらさめ
玉柏手茶入 銘 村雨
瀬戸 1口 施釉陶器
日本・桃山~江戸時代
16~17世紀
根津美術館蔵

胴の中程がややくびれた玉柏手の茶入。特徴的な釉薬の流れについての『大正名器鑑』の解説は、左掲の「茶器実見記」を元に書かれたことが分かる。松平直亮旧蔵。



重要文化財
ねづみのちやわん
鼠志野茶碗 銘 山の端
美濃 1口
施釉陶器
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

歪みのある形や大胆な文様が魅力的な桃山様式の鼠志野の茶碗。大正9年（1920）7月7日、根津嘉一郎邸にて本茶碗の調査および撮影がなされた。



重要文化財
あまもりちやわん
雨漏茶碗
1口 高麗茶碗
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

薄作りでしっとりとした肌。雨漏茶碗の白眉とされる。『大正名器鑑』刊行時は姫路酒井家所蔵であったが、後に根津嘉一郎の手に渡る。酒井忠正旧蔵。

—茶友をねぎらう名品の数々—

高橋箒庵と初代・根津嘉一郎（青山）の交流



初代・根津嘉一郎
(1860～1940、号青山)

年齢の近い二人は、明治末期ごろより、赤坂と青山にあったそれぞれの邸宅を行き来し、茶の湯を通して交流を深めた。嘉一郎は、茶の湯に詳しい箒庵の見識を信頼して折々に相談し、また箒庵旧蔵のいくつかの道具を譲り受けた。盟友・箒庵と共に、茶の湯の世界を楽しんだ嘉一郎の茶道具のコレクションには、まさに『大正名器鑑』の世界が映し出されていると言える。



そうあんおうちんさん
『高橋箒庵翁編纂大正名器鑑完成慰労会記』より転載

全9編刊行後の昭和4年（1929）4月17日、根津嘉一郎が中心となって開いた箒庵翁慰労会では、関係者所蔵の伊賀花入5点が陳列された。左端が嘉一郎所蔵の「銘 寿老人」（現 根津美術館蔵）。

展示室5 武人画家

武家の出でありながら画技にも秀でた画人たちの作品を紹介します。室町後期の水墨画から江戸後期の文人画まで、多種多様な作品をお楽しみください。



さんすいず
山水図
かほゆうしゅう
海北友松 筆
2幅のうち右幅
日本・桃山時代
16～17世紀
根津美術館蔵
こぼやしあたる
小林中氏寄贈

海北友松は、近江・浅井家の重臣の五男。本作は小品ながらも大胆な筆致で描いた豪放な作品で、墨の濃淡が生み出すコントラストが心地よい。

同時開催展

展示室6 梅雨時の茶

長雨により、ともすれば陰鬱になる梅雨時。茶の湯では、あえて雨や水にちなんだ道具を取り合わせることで、この季節に心を寄せます。



あかえうんりゅうもんますみずさし
赤絵雲龍文枅水指
景德鎮窯
1口 施釉磁器
中国・明時代
万暦年間 (1573-1620)
根津美術館蔵

雲を起し、雨を降らすとされる龍が、側面と蓋に描かれている。このような四角い器は、日本に到来後、「枅水指」と称され、茶の湯で用いられた。

関連プログラム

講演会 「高橋箒庵と『大正名器鑑』」
 (事前申込制) 日時 2020年6月20日(土)
 講師 熊倉 功夫氏 (MIHO MUSEUM 館長)
 会場 根津美術館 地下1階講堂
 定員 130名
 ※往復はがきで申し込み受付後、応募者多数の場合は抽選。
 ※当館ホームページからはお申込みいただけません。

〈申込方法〉 往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 「根津美術館講演会係」宛へお送りください。
 5月30日(土)締め切り(当日の消印まで有効)。結果は郵送で通知いたします。

スライド 「茶入と茶碗—『大正名器鑑』の世界—」
 レクチャー 日時 2020年6月12日(金)
 (事前申し込み不要) 6月26日(金)
 いずれも午後2時から45分程度
 講師 下村 奈穂子 (当館学芸員)
 会場 根津美術館講堂
 定員 130名
 ※担当学芸員が展示会の見どころをスライドを用いて解説いたします。
 ※事前申し込み不要。開始の15分前より開場いたします。
 ※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
 参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

展覧会名 企画展
 「茶入と茶碗—『大正名器鑑』の世界—」
 主催 根津美術館
 開催期間 2020年5月30日(土)～7月12日(日)
 開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
 休館日 毎週月曜日
 入館料 一般 1100円(900円)
 学生 800円(600円)
 ※()内は20名以上の団体料金、障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
 前売券 一般 900円 学生 600円
 ※2020年4月18日(土)～5月17日(日)
 特別展「国宝 燕子花図屏風—色彩の誘惑—」
 開催期間中、当館ミュージアムショップにて販売
 アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
 住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
 お問い合わせ Tel. 03-3400-2536 (代表)
 website <http://www.nezu-muse.or.jp>
 記者内覧会 2020年5月29日(金)
 のご案内 午後1時30分～3時(予定)
 ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

次回展 企画展「花を愛で、月を望む—日本の自然と美—」

2020年7月23日(木・祝)～9月6日(日)

古人人々は自然に親しみ、花鳥風月に託してその美しさをたたえました。日本の自然美を象徴するモチーフが表された書画や工芸品をご覧ください。

武蔵野図屏風(左隻)
 日本・江戸時代 17世紀
 根津美術館蔵



同時開催：
 展示室5「つわものの姿」(武具展示)
 展示室6「夏^{なつてまえ}点前一涼みの茶—」